

学級びらき～年度はじめの指導

【4月のとらえ】

- 学級づくりとは、学級集団の凝集度を高めることです。学級は学校における「家庭」であり、その仲間は「家族」であると考えられます。したがって、学級集団の凝集度を高めることができれば、自ずと一人一人の子どもの心が安定し、学習や諸活動への動機付けも高くなります。
- 4月は、学校生活の最も大きな節目として、夢や希望をもって教室に足を運ぶときです。どの子どもも過去の自分のよさを活かし、あるいは過去の自分の弱さを克服していこうと「今年（こそ）は…」と意気込み、よいスタートを切りたいと願っています。すべての子どもが新年度への期待をもっていることを十分に自覚し、願いを吸い上げ、具体的にし、前向きに活動できた事実を位置付けることが大切です。
- 反面、新しい先生や仲間との関係に不安を感じ、それをマイナスの行動で示そうとすることもあります。行動の裏にある意識を探り、子どもを丸ごと受け止めながらも、勝負しなければならない場面が数多くあります。学級担任は決して逃げたり、負けたりしてはならない時です。「あなた（達）が大切だからこそ許せない」と範を示すことが、学級集団の中に規律をつくる基盤となります。

「願い」を「かたち」にする ～望ましい習慣づくり～

【4月のポイント】

(1) 学級びらき ～担任第一声～ ※1年の中で最も注目して担任の話聞く1時間を意図的に仕組む。

- ・「この先生なら、いい思いをたくさんさせてくれそうだ」という『期待』を
- ・「私たちの学級はこんなことを大切にしていくなだな」という『見通し』を
- ・「こんな自分になりたい」という『あこがれ』を

例えば…

(2) はじめの1週間を目安に学校生活の基盤をつくる

- ・「基盤」とは ①役割行動 …日直、給食当番、掃除、教科係の動き方など
- ②規範意識 …時間行動（定時定位置）、あいさつ、提出物、聞き方・話し方 など
- ③心の解放 …学級あそび、構成的グループエンカウンター など
- ・意味指導と見届け、価値付けを丁寧に行って定着を図る。（担任第一声に基づいた指導）

(3) スタート活動（新しい仲間と役割分担し、力を合わせて『できた事実』を積み上げる活動）

- ・1年間の学級づくりの基盤となっていく内容を工夫する。できた事実がみんなのためになる実感を味わえる内容になるとよい。
- ・活動期間（1～2週間）を明らかにする。開始日までに一人一人の動き（内容・方法・時と場）を明確にするなど、子どもの自己有用感が高まるよう事前指導を万全に行う。

(4) 願いを大切にしたい組織作り

- ・「こんな学級にしたい」「こんな自分になりたい」という願いを確認する。
- ・学級の組織編成と一役の活動内容を明らかにした上で、自分が力を発揮できる一役に立候補する。（公約指導）
- ・民主的であり、全員が納得できる決め方（選挙）を考える。中学校では人気投票とならないよう、活動等の事実に基づいて認め合いができる場面を設定する。
- ・小学校中学年までは「自分のよさを知る」こと、高学年～中学校では「自分のよさを伸ばす」ことに重点をおく。

(5) 一人一人のよさと課題をつかみ、学級づくりの方針を決める

- ・子どもにできる限り長い時間寄り添って、すべての子どもとコミュニケーションを図る。
- ・子どものよさ、がんばりを家庭に伝える（通信・電話連絡）等、家庭と積極的に連携する。
- ・「学級目標」を決める。具体的な手順として、以下のように考える。
 - ①学校の教育目標、校長の経営ビジョン → ②担任第一声（担任の願い） → ③子どもの願い → ④実態把握 → ⑤出口でめざす子どもの姿・意識 → ⑥それを実現するための目標
- ・学級目標が決まったら、直ちに具現をめざした取組を仕組む。

※以上の内容等を、学年会で十分に検討し、共通実践を図ることが大切です。